

# みんな、版画家だった!?

民衆版画前史

生活つくり方と生活版画

折本版画絵巻 五所川原

中国における木刻版画運動

戦後版画と社会／平和運動

中国木刻関連資料、戦後版画運動関連資料

11月15日(水)～11月20日(月)

明治大学和泉キャンパス 和泉図書館 1Fギャラリー

主催 明治大学大学院教養デザイン研究科

※入場無料 どなたでも参加可能



「版画家」は日本にしかいないと言われるほど、日本における「版画」は特殊な位置を占めています。主に印刷技術として利用されていた木版は、江戸期における浮世絵／錦絵によって版画というかたちで興隆しました。それは浮世という名の通り、庶民の風俗を描いたものでした。木版多色刷りの浮世絵である錦絵の制作は、今の言葉でいえば「プロダクション」形式で行われ、版元、絵師、彫師、摺師の分業制によって、庶民の手に届く、安価で色彩豊かな版画を大量生産することができたのです。開国によって西欧美術の受容が始まると共に、印象派以降の西欧美術に日本の浮世絵の影響（明るい色、明確な輪郭線、風景、庶民の描写など）がある事を知ることにもなります。一部の美術家は版画を芸術にするために奮闘し、錦絵ではない創作版画（自画・自彫・自摺）をつくりだします。印刷のための木版工房で奉公し、その後、東京美術学校で西洋画を学んだ山本鼎が、文芸雑誌『明星』で発表した木版画《漁夫》が、創作版画の始まりとされています。その山本鼎が西欧留学の帰路に立ち寄ったロシアで児童創造絵画や農工芸に接し、帰国後に「自由画教育」「農民美術」の運動を始めます。各人の個性を活かし創造力を育むことで、芸術の担い手としての民衆を育てようとしたのです。版画家が子どもや民衆に美術創造を広げようとしたことで、版画も絵画技法として取り上げられました。魯迅に請われ、創作版画の講習会を上海で開いた内山嘉吉は、大正時代より自由画教育を行っている学校のひとつ「成城小学校」の美術の先生だったのです。

上岡誠二（芸術家）

11月15日(水)～11月20日(月)  
場所: 明治大学和泉キャンパス 和泉図書館 1Fギャラリー

まだ戦争の傷跡が深い1947年2月、神戸と東京で中国の木版画(木刻)を紹介する展覧会が開かれました。民主的な社会を模索する時代にあって、民衆の苦難を伝える中国木刻は、大きなインパクトを持って受け入れられ、これらを全国で紹介しようとする動きが巻き起こります。ここから「戦後版画運動」が起こり、1949年10月に日本版画運動協会が結成され、メンバーは労働運動、農民運動を版画で伝えました。1952年から朝鮮戦争終結を求め平和運動が盛り上がると、そこにも積極的に加わっています。

日本版画運動協会でも事務局を務めた大田耕士は、戦前に小学校教員として版画を指導した頃の経験から、版画制作を通じて「人づくり」に可能性を感じていました。そんななか、まだ若手教員だった無着成恭が、山形県山元村山元中学校で行った「生活綴り方」(作文)による教育実践を『山びこ学校』として題して1951年に本にまとめると、山あいの村の子どもの生活に根ざした画期的な教育に注目が集まり、大反響を巻き起こしました。山元中学校で作られた木版画を添えた文集なども『生活版画』として注目されると、大田もこの動きに共鳴し、教育のなかに版画制作を定着させる「教育版画運動」にまい進します。大田は1951年に「日本教育版画協会」を設立、版画の普及のため全国を飛び回りました。初期の版画教育は「生活版画」と銘打ち、作文教育と組み合わせられたものでした。全国の教員が主体となりカリキュラムが工夫されると、次第に共同制作の大型版画や絵本、紙芝居、絵巻など版画独自の展開が広がります。さらに地域の歴史や地理教育とも結びついたユニークな実践も花開きました。

日本の版画運動と中国の版画運動とは深い関係を持っています。1930年代前半、中国文学の父たる魯迅が上海内山書店の内山嘉吉と版画講習会を開いたことが起点となります。そこで学んだ弟子たち(孫弟子たち)が抗日期を通じて版画を制作し、また巡回方式で展覧会を行ないました。例えば、彦彦の作品「女性たちを隠す(把她们隱藏起来)」(1944年)は、侵略戦争が庶民を巻き込んだ事情が伺えます。戦後の一時期、日本において抗日版画がデパートも含む各地で紹介されていました。ここで一つ忘れてならないのは、ドイツの女性芸術家、ケーテ・コルヴッツの存在です。ケーテの諸作品に魯迅は触れ、大きな衝撃を受けました。ケーテに手紙を書き、中国への招聘を懇願するほどでした。さて、ケーテの作品は日本にも伝わっており、深い影響を与えました。版画家として平和運動を牽引した、上野誠、鈴木賢二などはよま知られた存在です。さらに『カムイ伝』などを描いた漫画家、白土三平の作風にケーテの影響を見ることがもできます。ちなみに、ケーテの作品を(中国よりも)多く収蔵しているのが、沖縄の嘉手納基地に隣接する佐喜真美術館です。佐喜真美術館は、六十点以上のケーテの作品を所蔵し、反基地運動とリンクした活動を続けています。ちなみに佐喜真美術館は過去、北京や上海の美術館にケーテの作品を貸出す活動も行っています。つまり、東アジアにおける版画運動の連鎖は、東アジア内部だけでなく、ドイツの反戦芸術ともリンクして成立しているのです。

町田市立国際版画美術館 学芸員 町村悠香

教養デザイン研究科長 丸川哲史

みんな、版画家だった!?  
戦後版画運動の成り立ちと起源

連絡先 明治大学大学院教養デザイン研究科  
E-mail: humanity@mics.meiji.ac.jp TEL: 03-5300-1529